

熊本市のスマートシティの取組について

政策局 データ戦略課

1. スマートシティとは

(1)本市の基本的な考え方

国が掲げるデジタル田園都市国家構想では、デジタルの力を活用した地方の社会課題解決・魅力向上を図るとしている。本市においても、ICT等の新技術やデータを活用し、官民が連携して地域の課題を解決することにより、持続的で上質な市民生活・都市活動を実現するまち、すなわち、「スマートシティ」を推進している。

スマートシティの取組は、単に新技術をツールとして活用するだけではなく、産学官が連携し、民間企業等や大学、市民などの多様な主体が持つ知恵や技術を生かすことで、分野横断の取組など、これまでにない枠組での課題解決や持続的な都市経営へとつながることも期待されている。

本市では、スマートシティの取組を官民連携で推進するため、令和3年10月にスマートシティくまもと推進官民連携協議会を設立するとともに、令和4年3月に「スマートシティくまもと推進戦略」を策定した。令和6年3月には、この推進戦略を統合する形で「くまもとDXアクションプラン」を策定し、引き続き、この取組を推進している。

(2)推進体制

■スマートシティくまもと推進官民連携協議会

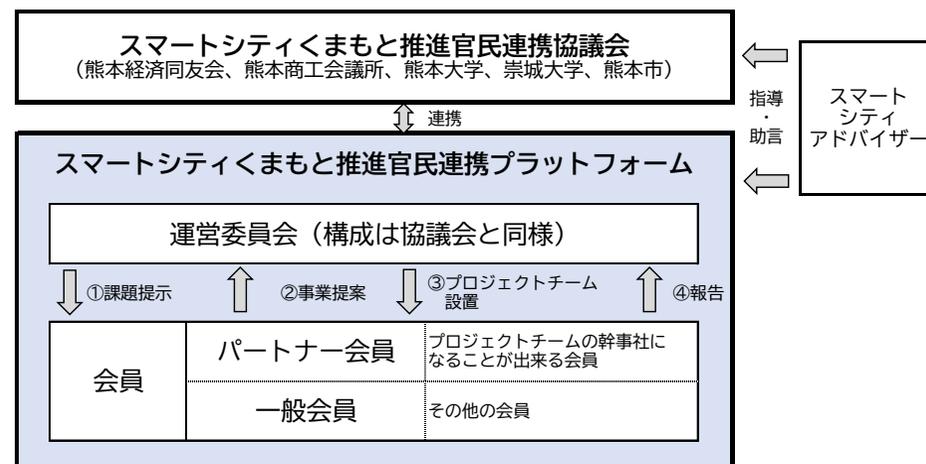
官民連携で取組を進めるため、令和3年10月設置。熊本経済同友会、熊本商工会議所、熊本大学、崇城大学、熊本市により構成。

■スマートシティくまもと推進官民連携プラットフォーム

多様な主体の積極的な参画と官民の連携を促し、実務的な協議や具体的な事業創出の場として、協議会での合意に基づき、令和4年1月に設置。運営委員会（構成員は協議会と同様）及び会員（81団体）により構成。運営委員会からの課題提示、それを受けて会員からの事業提案が主な活動となっている。

■熊本市スマートシティアドバイザー

専門的知見やノウハウ、幅広いネットワーク等を基に指導や助言をいただくことを目的として、越塚登氏及び東博暢氏に委嘱。



2. 令和5年度までに設置したプロジェクト

プロアクティブな防災対応、その実現に向けて					
 防災	設置	令和4年7月	状況	令和5年度一部実装（くまもとアプリ）	
	幹事会員	西日本電信電話株式会社 熊本支店		担当課	防災計画課
	SNSを活用した「地域の被災状況の迅速な把握」やGPS情報を活用した「個々の市民に応じた情報提供」等について検討。市民参加の訓練等を通じ、防災アプリを活用した避難所受付や防災情報システムによる避難人数把握の検証を行った。				

HAZARD Busterアプリ（クラウド）サービスを用いた登下校時の安全対策強化					
 児童の安全	設置	令和6年2月	状況	令和6年度実証（準備中）	
	幹事会員	株式会社ALL LINKAGE		担当課	健康教育課
	iPadにアプリをインストールしGPSと連動させることで、緊急時は、児童の位置や移動履歴を迅速に把握するとともに、関係者に緊急情報を配信し共有する。また、平時においても、地図上に過去の交通事故発生場所などを表示させ防犯学習や関係者間の情報共有に活用する。				

健康で生きがいを持ったまちづくりの実現に向けて					
 ヘルスケア	設置	令和4年7月	状況	令和5年度実装（業務委託）	
	幹事会員	株式会社J.H.Wellness		担当課	高齢福祉課
	介護・医療費の抑制と健康寿命の延伸を目指し、ロアッソ熊本等と連携した専門プログラムを開発。65歳以上の方450名を対象に同プログラムを使った健康教室を開催し、参加者の筋力、歩行スピード、バランス等のデータを捕捉し、その向上を確認した。				

テクノロジーで道路を守る、安全で快適なまちづくり					
 道路インフラ	設置	令和6年2月	状況	令和6年度実証（準備中）	
	幹事会員	62Complex株式会社		担当課	道路保全課
	目視点検で行っていた道路の保守・点検に、自動車やバスに搭載した計測センサーとAIを活用した分析システムを導入することで、人手不足を解消を目指す。また、保守点検データを一元管理することで、継続的に効率的な管理・運用ができる体制を構築する。				

LINEを活用した市民参加型モニタリング調査システム					
 環境	設置	令和4年12月	状況	令和5年度実証	
	幹事会員	富士通Japan株式会社熊本支社		担当課	環境政策課
	毎年実施している市民参加型のモニタリング調査（セミ調査）への市民参加の促進及び集計作業の職員負担を軽減することを目的とし、調査アプリの実証を行った。職員負担軽減には一定の効果が検証できたが、市民の参加促進のためには、参加意欲向上を図る仕掛けづくり等の課題が明確化された。				

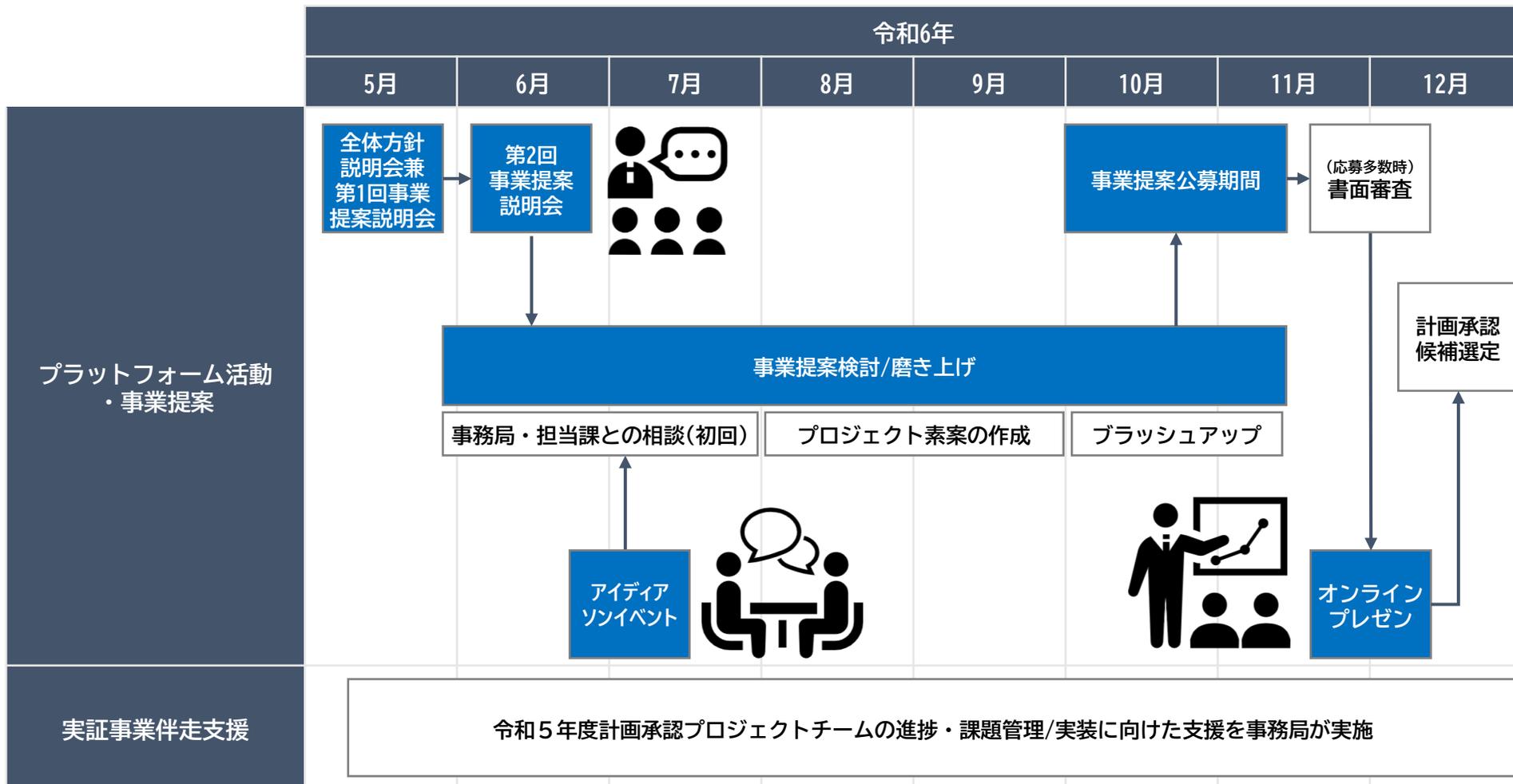
DXを活用した道路維持管理の高度化に向けた事業モデルの構築					
 道路インフラ	設置	令和6年2月	状況	令和6年度実証（準備中）	
	幹事会員	西日本電信電話株式会社 熊本支店		担当課	道路保全課
	ドレコ等のデータを活用し、AIによる分析を実施することで、人的コスト等を抑えつつ適切な道路維持管理の課題解決を図る。また、点検履歴の管理・活用を一元化し、道路維持管理の高度化・効率化を図る。				

人流データを活用した中心市街地活性化（交通、観光、商業等）に向けた事業モデルの構築					
 まちづくり	設置	令和4年12月	状況	令和5年度実証（現在実装に向け検討中）	
	幹事会員	株式会社地域創生Coデザイン研究所		担当課	市街地整備課等
	定量的把握や効果的な施策立案に資するデータを提供する枠組みの構築を目指し「イベント開催時の来街者動線把握による滞在時間増加の要因分析」等について、カメラ画像やWi-Fi等を用いた調査（データ取得）、取得データの分析を行った。今後、行政や民間において中心市街地活性化に向けた様々な取組に活用する。				

※道路インフラ関係の2つのプロジェクトについては、点検の精度や感度、省力化の効果、他の事業者の巻き込み、点検データの一元管理などの観点から比較検証

※実証と実装の違いについては、以下のとおり
 実証…開発中のサービスやアプリケーション等を実際の場面で試験的に使用し、実用化に向けた問題点を検証すること
 実装…開発したサービスやアプリケーションを実際の場面で使用し機能させること

3. 令和6年度のスケジュール



4. 令和6年度提示課題(案)

テーマ	解決したい課題
 <p>テーマ1 公共交通への移動手段転換（利用促進）と流入交通の平準化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓市民の公共交通に対する不満や不便さを可能な限り解消することで、公共交通への転換を促したい ✓特定の時間帯や場所に集中する交通の分散により、流入交通の平準化を図りたい
 <p>テーマ2 通勤通学時を中心とした市内全域での自転車利用促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓自転車と公共交通との結節性を向上させることで、市内全域で自転車の利便性向上と自家用車から公共交通・自転車への転換を図りたい ✓チャリチャリに限らず近距離の移動手段として便利で気軽に利用できる自転車のメリットを市民に享受してもらい自転車の利用を促進したい
 <p>テーマ3 夏目漱石にゆかりのある他の施設も巻き込んだ第6旧居の新たな利活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓市民や観光客が集う“きっかけ”となるような、夏目漱石にゆかりのある他の施設も巻き込んだ第6旧居の新たな利活用を図りたい。 <p>※データやICTの活用に加えリアルな体験（飲食や文化活動など）も組み合わせた利活用を図りたい。</p>
 <p>テーマ4 市民誰もがシームレスに情報の取得やサービスの利用ができる仕組みの構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓高齢者、障がい者、子育て世代、外国の方々を含めた多様な市民誰もが、必要としている情報やサービスの利用をシームレスに行える仕組みを構築したい
 <p>テーマ5 熊本市郊外型スマートシティ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓デジタル技術やデータを積極的に活用し、郊外の地域の住民の生活の質を維持向上させたい <p>※分野横断的な取組や平時と緊急時で継ぎ目ない取組としたい</p>